

わたしたちと国際協力・SDGs ～学生の声～

現在、学校でも多く取り入れられている開発教育・国際理解教育やSDGs学習。今、国際協力やSDGsに強く関心を持つ学生は、どのような授業や活動がきっかけになったのでしょうか。今回は、高校生と大学生に取材を行い、教員が授業をつくるヒント、また同世代の学生も参考になるような「学生の声」をお届けします！関心を持ったきっかけや、印象に残った授業、受けてみたい授業、さらに、日頃どのような情報収集をしているのかをお聞きました。

高校生の声

<取材にご協力いただいた高校生の皆さん>

明治学園中学高等学校(福岡県) 高校3年生 目(さっか) 淑乃さん
千葉県立松戸国際高等学校 1年生 榎本 隼大さん、深山 萌日さん

国際協力やSDGsに興味をもったきっかけは？

目さん(目): 中学生の時アメリカの大学を見学する機会があって、英語が理解できない不便から、学ぶにもその前のハンディキャップがあると感じました。そこから、生まれた国によって何かの機会が制限されるような状況をなくしたい、と思うようになりました。

榎本さん(榎): 学年集会で、校長先生からSDGsの各ゴールについて話を聞き、世界で起きている飢餓問題に関心を持ちました。学校での授業以外にも自分で調べて、世界のそれぞれの地域で飢餓に苦しむ人がどのくらいいるか、などを学んでいます。

深山さん(深): 学校の総合学習・探究学習で、SDGsについて学んで発表するプログラムがありました。班に分かれて、4ヶ月間かけて調べ、発表の準備をしていきました。それを通して、私は世界の水問題に興味を湧いて、JICAのSDGsに関するWebページなどを見て調べるようになりました。



目さんは、2020年度JICA国際協力エッセイコンテスト(高校生の部)で文部科学大臣賞を受賞しました。

●入賞作品「私と世界の接点」は[こちら](#)●

『世界の不平等に関心を持っていて、いろんな人が互いに「ちがいを理解して、差別のない、人と人のつながりをもてるような社会にしたい」という思いから、このエッセイを書きました。』と話してくれました。



今までに受けた、おもしろかった授業・印象に残っている授業は？

(目) 高校1年生の時に、自分の興味のあることを調べる「課題研究」の活動がありました。私は修学旅行とも掛け合わせて、海外からの観光客にとっての日本の環境を調べるために、いくつかの大型百貨店にアポを取ってインタビューをしました。学校が関わっていないと、なかなかできない体験だったと思います。

(榎) 中学校の公民でSDGsについて教わったことが印象に残っています。世界にはそんなに課題があるんだ！と驚きました。

(深) 地理の授業で酸性雨のことや環境破壊のことを教わったことが、調べ学習をする時にもつながって、その結びつきが印象に残りました。



わたしたちは、こうして情報収集しています！

(目) 珍しいと思うんですが、私は新聞が好きで、毎日読んで、わからない言葉があったら自分で調べるのが習慣です。広告チラシにもヒントがあって、地域の企業がSDGsやエシカル消費について書いていることも多いです。あとはJICA九州やJICA地球ひろばのイベント情報も定期的にチェックして、興味のあるものに参加したり、最近では、学校で先生が雑談として話していたことの中から、途上国でのコロナ対策を知ることができました。

こんな授業、こんな教材があったらいいな！と思うものは？

(目) 世界の国とのオンライン交流をしたいです。地域の姉妹都市交流などもありますが、それで実際に交流できるのは、どこから選ばれた数名だけだし、学校同士の交流は全体で決まったことをやるので、友達にまではなれません。できれば1人ずつパソコンからオンラインに入って、生徒1人に対して海外の人1人で、1対1で話せたら、世界がもっと近く感じられて、SDGsのこともっと自分ごととして学べると思います。

(榎) SDGsのそれぞれのゴールについてもっと詳しく知りたいので、社会科などで1つ1つを学べる機会があったらいいと思います。そして、例えば給食からフードロス減らす活動を学校でできたりすると、知ったことを行動に移すきっかけになると思います。

(深) 私は高校に入るまでSDGsのことを知らなかったため、SDGsや世界の課題について学べる時間が小学生のうちからあったらいいなと思います。

▼JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストについては[こちら](#)(2021年度作品募集中！9/11まで)

[概要](#) / [2021年度募集案内](#) / [過去の受賞作品](#) / [エッセイを活用した授業実践事例](#)

大学生の声

<取材にご協力いただいた大学生の皆さん>

JICA地球ひろばインターン 麗澤大学 3年 米田 彩絵さん
上智大学 1年 柳澤 明香さん
早稲田大学 2年 瀧脇 和紗さん

国際協力やSDGsに興味をもったきっかけは？

米田さん(米): 中学校の校外学習で、東京のユニセフハウスに訪れたことがきっかけです。この時に初めて紛争の恐ろしさや、世界の現状を知ることができました。自分と同年くらいかそれよりも小さい子供たちが、地雷で足を無くしてしまったこと、栄養失調で苦しんでいること、学校に行くことができないという事実、特に大きなショックを受けたのを覚えています。

瀧脇さん(瀧): 小さい頃の海外旅行をきっかけに、「世界がより良くなるために何かしたい」という思いがあり、高校生の時に手に取った「国際協力師になるために」という本を通して国際協力について知り、自分が抱いていた思いとのつながりを感じて興味を持つようになりました。



瀧脇さんは、過去にJICA中国の国際教育研修会に二度参加したそうです。JICA地球ひろばや国内拠点では、学生向けのイベント・セミナーや、社会人と学生両方を対象とした研修も多数開催されています。ぜひご注目ください！

今までに受けた、おもしろかった授業・印象に残っている授業は？

(米) 高校の英語の授業で、ロヒンギャ難民や、外国人労働者など様々なトピックで英語のディスカッションをしました。世界で起きている問題を、当事者の視点で考える初めての機会だったので印象に残っています。また、大学での「模擬国連会議」という授業では、各自がその国の立場で意見を述べます。国際問題について深く考えるきっかけとなるとともに、各国の立ち位置や、その背景にある国際的な関係に目を向ける機会にもなりました。

柳澤さん(柳): 高校生の頃に通っていたインドネシアのインターナショナルスクールで、社会科の時間に「SDGsの17の目標から自分の興味あるものを1つ、また、発展途上国の1か国を決め、その国が抱えている問題をどのように解決することができるかを模索する」という授業がありました。この授業では、その国の文化や慣習を尊重しながら、どのように解決に向かうことができるかを真剣に考える機会となりました。

(瀧) 中学生のとき、英語の教科書でカンボジアの地雷について学びました。いまだに地雷に悩まされる人々がいることを初めて知り、行き場のない怒りと悲しみに襲われました。また、同時に「世界をよりよくしたい」という思いが強まりました。感情を大きく揺さぶられたからこそ、特に印象に残っているのだと思います。

わたしたちは、こうして情報収集しています！



(米) SNS (Instagramなど) で国連機関やNPOのアカウントをフォローしています。日々更新されるので、新しい変化を知ることや、分野ごとに情報収集するのに便利です。

(瀧) 大学の図書館で国際協力キャリアガイドや国際開発ジャーナルを読んでいます。またJICAのPARTNER エクスプレスやJICA開発教育メルマガ、国際機関人事センターのメーリングリストにも登録しています。

こんな授業、こんな教材があったらいいな！と思うものは？

(米) 「模擬国連会議」のように、当事者になりきって国際的な問題を自分事化し、意見交換をする授業があったらよいと思います。自分が発する情報に責任を持つことが求められること、相手がどのように反応するかという点で、国際的な問題やその背景にある文化や歴史への興味が出てくると思います。

(柳) 英語で討論やプレゼンテーションを行う授業が義務教育からあったらいいなと思います。私は高校からインターナショナルスクールに通い始めたのですが、幼少期から英語で会話することに慣れている他国の生徒と差があることを実感したため、日本の学校教育でも、英語での討論やプレゼンテーションの能力を養っていける機会がもっとあれば望ましいと感じます。

(瀧) まずは生の声を聞く機会がとても大事だと思います！国連職員やJICA職員、JICA海外協力隊の方など、存在を知ってはいってもなかなかイメージしにくいのが本音です。そのため、授業にゲストとしてお迎えし直接お話を伺うことで、どんな考えを持って、どんな仕事をしているのかを想像しやすくなると考えます。

また、個人的には国際協力というグローバルなフィールドで、日本人アイデンティティをどう活用すべきか、今まさに悩んでいるところです。日本人としての強みを生かして、どのように世界に貢献できるかを考えるような授業があったら受けてみたいです。



学校でのSDGsプログラムや社会科見学、海外体験、本など、世界を見つめるきっかけは実に様々で、ひとつのことから多くを感じとる感性が、未来につながっていました。知識だけに留まらない多様な体験や、実生活と世界のつながりのヒントを日常に散りばめることで、新たなアクションにつながっていくのかもしれない。教材やエッセイコンテスト、出前講座など、JICAでは学生の学びのためのツールをたくさんご用意しています。ぜひご活用ください！